

がく しゅう しん だん
学習診断テスト
 小3 国語



11月

●干支シリーズ 寅【トラ】

子【ネ】

丑【ウシ】

寅【トラ】

卯【ウ】

辰【タツ】

巳【ミ】

午【ウマ】

未【ヒツジ】

申【サル】

酉【トリ】

戌【イヌ】

亥【イ】

【注意】

- ① 先生が「はじめなさい」といわれるまでは、問題用紙をひらいてはいけません。
- ② 問題用紙のあいだに、解答用紙がはいっています。答えは、すべて、この解答用紙にかきましょう。
 ※黒えんぴつを使ってはっきりとかいて、なおすときは消しゴムできれいに消しましょう。
 ※解答らんの中にかきましょう。
- ③ 解答用紙の会場コード・受験番号のところには、先生がいわれる数字をかきましょう。
 また、氏名のところには、あなたの名前をかきましょう。
- ④ 問題は、声をださずによみましょう。
- ⑤ 問題の字がかすれていたり、そのほかわからないことがあったりしたら、だまって手をあげ、先生にきくようにしましょう。

1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 木にたくさんのりんごが実|る。
- (2) ヨーロッパをめぐる船|旅を楽しむ。
- (3) 近くのレストランで昼|食をとる。
- (4) こまっている人に親|切にする。
- (5) 外で暗くなるまでアソ|ぶ。
- (6) よくないうわさがヒ口まる。
- (7) よくひえたムギチャを飲む。
- (8) スーパーでギ|ュウニクを買う。

2

次の(1)～(6)のことを、() の漢字に直したときの送りがなを、それぞれひらがなで書いて答えなさい。

- (1) あかるい (明)
- (2) はぐくむ (育)
- (3) むかう (向)
- (4) あたらしい (新)
- (5) くだる (下)
- (6) しあわせ (幸)

3

次のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の①～③の文の に入るふさわしいことを、それぞれあとから一つずつえらび、記号で答えなさい。(同じものは二度えらべません。)
 - ① 小さな努力を とつづける。
 - ② 時間をかけずに と算数の問題をとく。
 - ③ 部屋のドアを と軽いたたく。
- | | | |
|----------|--------|--------|
| ア ごちゃごちゃ | イ ほのぼの | ウ こつこつ |
| エ のりくらり | オ はらはら | カ すらすら |
| キ チリンチリン | ク ドンドン | ケ コンコン |
- (2) 次の①・②の様子を表すことばとしてふさわしいものを、それぞれのあとから一つずつえらび、記号で答えなさい。
 - ① じっと見つめる様子。
- | | | |
|--------|--------|----------|
| ア ぼんやり | イ まじまじ | ウ きよろきよろ |
| エ ちらっ | オ すたすた | イ てくてく |
| ウ よたよた | エ うろうろ | |
- ② 急いでさっさと歩く様子。

4

次の詩を味わい、あとの問いに答えなさい。

どうしよう

川崎洋

- きのう ぼくは 海で
トビウオと ともだちになった
きょう かあさんが
さしみを買ってきたら
どうしよう
ともだちの
ともだちかもしれない
きょう ぼくは 森で
クスノキと ともだちになった
あした コマドリが
小枝に巣すをかけたら
どうしよう
ちかよるのを
いやがるかもしれない
あした ぼくは 空で
宇宙人うちゅうじんと ともだちになる
うんと あそんでさ
地球へ帰ったら
さあたいへん
ぼくのうちも 家族もだれもない
どうしよう
どうしよう
- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒

(1) 次の㊶㊷のせつ明にあてはまるものをあとからそれぞれ一つずつえらび、記号で答えなさい。

- ㊶ 「ぼく」がきのうともだちになったもの
㊷ 「ぼく」がきょうともだちになったもの
㊸ 「ぼく」があしたともだちになるもの

ア トビウオ

イ さしみ

ウ クスノキ

エ コマドリ

オ 宇宙人

(2) この詩は、どのような表し方でかかれていますか。次からふさわしいものを一つえらび、記号で答えなさい。

ア ことばのじゅんばんがふつうとは反対になっている。

イ 読んでいる人によびかけるようなことばを使っている。

ウ じつさいの音をまねたことばをたくさん使っている。

エ 同じことばを何回もくりかえして使っている。

(3) ③㉑行目「きょう かあさんが／さしみを／買ってきたら／どうしよう」とありますが、このとき「ぼく」が考えていることを、「そのさしみのともだちは、／かもしれない。」という形で、書いて答えなさい。

(4) ⑩⑫行目「あした コマドリが／小枝に巢をかけたら／ど
うしよう」とありますが、「ぼく」は巢ができるとどうなると思
っていますか。それをせつ明した次の文の□に入るふ
さわしいことばを、詩の中から十字で書きぬいて答えなさい。
「ぼく」がクスノキにちかよるのを、コマドリが□
と思っています。」

(5) この詩についてのせつ明としてふさわしいものを次から一つ
えらび、記号で答えなさい。

ア これから先も、いろいろなものともだちになっていこう
と考えている「ぼく」の様子をうたっている。

イ これから起きるかもしれないことを不安に思っているが、
どこか楽しそうな「ぼく」の様子をうたっている。

ウ これから先に起きることは自分にとってよくないことだけ
だどがっかりする「ぼく」の様子をうたっている。

エ 今までにしてきたことが悪いことだったと気づいて、反省
する「ぼく」の様子をうたっている。

5

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《「ぼく（空斗・くうと）くうたん」は、近所のおばあさんの飼（か）い犬チャッピーの散歩（さんぽ）をするボランティアをしています。『ぼく』はチャッピーの訓練（くんれん）がうまくいっていることを友だちの優佳（ゆか）にじましました。》

「おはよう。あんな、チャッピーは、ダメ犬じゃなかったぞ」

「へえっ。くうたん、まだあのボランティアって、やってたの？」

「なんだよ。あたりまえだよ」

むっとして、かるくにらんでしまった。優佳は、手さげを左右にふりながら、「そんなにむきにならないで」と笑（わら）う。

「もうやめたかと思っちゃった。優佳だって、せっかく世話するなら、ダメ犬より、かしこい犬のほうがいいもん」

「ひどいことを言うな。あの日は、はじめてだからやりかたがわからなかったんだよ。」
① チャッピーもなれてきて、しつけもできんだ」

チャッピーのことなのに、自分がダメと言われたように聞こえてしまう。

だいたい、優佳はぼくに対して、ずけずけ言いたいことを言う。姉弟（しでい）みたいって、友だちにからかわれるのはそのせいだ。

② 保育園時代、* おませな優佳は、ほかの子より背（せ）がひくかった。ぼくの世話をよくしたらしい。

くつをはかせてくれたり、まちがったボタンをとめなおしてく

れたり。そのころのぼくは、おとなしくて、されるままになっていたようだ。

「空斗（くうと）って、くつの左右をよくまちがえてはいたのよね。いつも優佳ちゃんがおしてくれたのよ」

おかあさんは、ぼくの失敗談（しっぱいだん）をうれしそうに話す。でも、ぼくにとってははかしくて、消しゴムで消したい思い出た。

もう、保育園時代のくうたんじゃない。

四年生になった今は、優佳よりも背も高いし、かけ足だってスイングだってタイムが上だ。けど、優佳はあいかわらずお姉さんみたいなたいどを取る。今も、うたがわしいという目でぼくを見ている。

「あのわがまま犬がねー。自分の目でたしかめるまで信じられないな」

「じゃ、見にこいよ」

「どんなことができるの？」

「『おいで』ってよぶと走ってきて、ちゃんと『おすわり』する。」

『お手』もする」

「えっ、それだけ？」

優佳は、目をくるとまわして、くふふと笑った。
③ ぼくは、がくつと体をゆらした。

「ダメ？ ちゃんと* リードをひいても歩けなかったやつが、そこまてなったんだぞ。おまえが言った* アイコンタクトだって、今はばっちりだ」

「うーん。びみょう。『おいで』とか、『お手』は、初級（しよきゅう）じゃん。」

せめて『ふせ』とか『待て』くらいはおぼえさせなきゃ、訓練したって言えないんじゃない？」

「『待て』って、どういうんだよ？」

「えさを見せても、かいぬしが『待て』と言っている間は、じつとがまんして食べないの。かいぬしが『よし』と言ったら、はじめて食べるの。待っている時間が長いほど、きちんとしつけができてるのよ」

「『おあずけ』みたいなやつか……」

④ ぼくは口をひんまげた。食いしんぼうのチャッピーは、にがてそうな気がする。

「なーんだ。犬のこと、よく知らないんじゃない？」

⑤ 優佳は、ふふんと鼻をふくらます。

「わかったよ。それじゃ、『待て』も教えるよ。優佳が見にくるまでに」

「いいよ。そんな無理^{むり}しないでも」

「一週間もあればおぼえられる。いや、ぼくがおぼえさせる。

* サニーのドッグトレーナーの太田^{おわた}さんに、* すじがいいってほめられたんだぞ」

「すごいじゃん。じゃ、優佳、来週になったら見に行こうかな。バレエの発表会も終わって、ひまになってるから」

「おう、いいじゃん。 ※、そのとき、チャッピーがちゃんとやったら、ダメ犬を取り消して、ぼくにもあやまれよ」

「なんて、くうたんにあやまるの？」

「犬がダメって言われると、かいぬしもダメって言われた気に

65

なるの。優佳も犬をかったらわかるよ」

「いいよ。ちゃんとできたらね」

来週^{らいしゅう}の金曜^{きんよう}の放課後^{ほうかご}と約束^{やくそく}して、優佳は登校中の友だちのほうにかけていった。おすんだかみが、ぴよんぴよんとはずむようにゆれている。

「よし。やってやるぞ」

ぼくは、ランドセルを背負いなおすと、こぶしをにぎりしめた。

〈赤羽じゅんこ「犬をかうまえに」より〉

(注) おませ11年れいよりも大人っぽいことをしたり、言ったりすること。

リード11犬などを引くつなのこと。

アイコンタクト11目を見ることで、相手に何かをつたえること。

サニーのドッグトレーナー11ドッグトレーナーは、犬の

しつけを仕事にしている人。

太田さんはサニーのしつけをしている。

すじがいい11上手になるのが早い。

(1) 線①「チャッピーもなれてきて、しつけもできたんだ」

とありますが、チャッピーはどのようなことができるようになったか。それをせつ明した次の文の□に入るふさわしいことばを、それぞれ本文中から、①は三字、②は四字、③は二字で書きぬいて答えなさい。

70

「①」とよぶと走ってくるようになり、②と

③もできるようになった。」

- (2) 線②「保育園時代、おませな優佳は、ほかの子より背がひくかったばかりの世話をよくしたらしい」とありますが、このころのことを思い出すと、「ぼく」はどんな気持ちになりますか。次からふさわしいものを一つえらび、記号で答えなさい。

ア うれしい気持ち。 イ なつかしい気持ち。
ウ かなしい気持ち。 エ はずかしい気持ち。

- (3) 線③「ぼくは、がくつと体をゆらした」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとしてふさわしいものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

ア 優佳がわらいながら自分と話してくれているので、ほっとする気持ち。
イ 優佳のことばが自分が思ったようなものではなく、がっかりする気持ち。

ウ 優佳が犬のしつけの^{たいへん}大変さをわかってくれないことに、いらする気持ち。
エ 優佳がまったく関係^{かんけい}のない話をしはじめたので、びっくりする気持ち。

- (4) 線④「ぼくは口をひんまげた」とありますが、「ぼく」はこのとき、どのようなことを考えましたか。それをせつ明した次の文の□に入るふさわしいことばを、本文中から六字で書きぬいて答えなさい。

「チャッピーは□なので、えさが目の前になるとがまんできないかもしれないということ。」

- (5) 線⑤「優佳は、ふふんと鼻をふくらます」とありますが、このときの優佳のせつ明としてふさわしいものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」がなまいきなことばかり言うのでおこっている。
イ 「ぼく」がたよってくれることをうれしく思っている。
ウ 「ぼく」の犬のしつけがうまくいくかを心配している。

- (6) ※□に入るふさわしいことばを次から一つえらび、記号で答えなさい。

ア たとえ イ きつと
ウ もし エ まるで

- (7) 本文中に書かれていることに合っていないものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」は、今では優佳より背が高いが、優佳のことをお姉さんのようだと思っている。
イ 「ぼく」は、チャッピーのことを「ダメ犬」と言われて、自分がダメだと言われたように感じた。

ウ 優佳は、チャッピーが『待て』をおぼえられたかどうか見に行く約束をした。

エ 優佳は、「ぼく」が太田さんにほめられたことについては、すなおにすごいと思った。

(これで問題は終わりです)



11
月

○
小
3
国

小3国

5

第4領域***

28

***物語の読解

4

第3領域**

28

**…時の鑑賞

23

第2領域**

28

***漢字・ことは

1

第1領域*

16

*…漢字の読み書き

総得点

100

22110113A100



※答えは、はつぎりと濃く書き、直す場合には消しゴムで完全に消しなさい。また、解答欄からはみ出してはいけません。
※記号の「ア」と「イ」、数字の「一」と「7」などは区別をつけてはつぎりと書きなさい。

11月テスト 小3国語 解答用紙

会場コード(右ヅメ)

区分

1

受験番号

男1
3
女9

科目

A1

氏名

本枠内に記入しなさい。受験番号は性別番号を○でかこみ、下の々々を正しく記入すること。

1

小計

2点

×

()

16

(5)

(1)

ぶ

る

(6)

(2)

まる

(7)

(3)

(8)

(4)

8 4

2

小計

3点

×

()

18

(4)

(1)

新

明

(5)

(2)

下

育

(6)

(3)

幸

向

(7)

(4)

14 11

3

小計

2点

×

()

10

(2)

(1)

①

①

(2)

(2)

②

②

(3)

(3)

③

③

17

4

小計

4点

減点

×

()

28

(5)

(4)

(3)

(2)

(1)

⑦

(1)

(1)

①

①

(2)

(2)

②

②

22

そのさしみのともだちは、

かもしれない。

24

5

小計

4点

×

()

28

(7)

(6)

(5)

(4)

(3)

(2)

(1)

①

(1)

(1)

①

①

(2)

(2)

②

②

27

30

30